

天草設備(株)創立46周年 ボランティア活動・社員旅行



平成28年7月13日をもちまして天草設備(株)は創立46周年を迎えることができました。それに伴い、恒例のボランティア活動を7月9日(土)に実施。天草市内のカーブミラー清掃をさせて頂きました。また、翌週16日(土)には先の熊本地震に伴う熊本、天草の観光客減少の事態に私たちが少しでもお役に立てればと思い、天草島内一周の社員旅行を実施しました。



～天草設備(株)歴史巡りの旅～

みなさんの記憶にも新しい7/16。社員旅行として天草設備の歴史を巡る天草一周ツアーに参加しました。入社して14年。これまで様々な工事に従事してきましたが、これが天草設備の歴史の一部になっていると考えると感慨深いものがあります。

ツアー中、諸先輩方の体験談を興味深く拝聴させていただきました。苦労された点、工夫された点など様々なお話を聴く事ができ、大変有意義な時間を過ごす事ができました。今後、いくつもの現場に携わる事になると思いますが、今まで積み上げてきた天草設備の歴史に、また、後に続く後輩たちに恥じる事のない施工を心掛けていきたいと思ひます。



ISO更新審査終わる

審査日：6月29日～7月1日 審査機関：合同会社ISO飛鳥

No.	区分	審査対象部署	観察された状態(客観的証拠)	規格 要求事項
1	GP	全社	トップマネジメントと従事者のコミュニケーションとして6～7人のグループを結成し、横の繋がりを重視していることを伺いました。トップマネジメントへの報告と、フィードバックを通じて、多岐に渡る内容についてのコミュニケーションがとられていることを確認しました。	QMS/EMS:7.4 コミュニケーション OHSAS:4.4.3.1 コミュニケーション
2	GP	全社	自然災害への対応として、行政とは別に独自の対応を策定し、社員とその家族を含め、意識的に準備をすすめることをインタビューにて伺いました。 潜在的な緊急事態への準備として、利害関係者も含む細かな想定がされていることを確認しました。	EMS:8.2 OHSAS4.4.7 緊急事態への準備及び対応
3	改	設計部	設計案件等について紙媒体及び電子媒体にてリストが作成され、受注結果が記録されていました。 設計部において有用な情報となりうる記録類を組織の知識として残す方法に改善の余地があります。	QMS/EMS 7.1.6 組織の知識
4	改	全社	公的資格取得のための中長期的計画を策定し、その教育訓練過程における途中経過の有効性を評価し、現段階のレベルを確認する方法に改善の余地があります。	QMS/EMS:7.2 力量 OHSAS:4.4.2 力量、教育訓練及び自覚
5	改	工務部	労働安全衛生目標としてヒヤリハット事例を1人×1件(1月)抽出されています。発生件数が多い項目に関し、傾向を分析・分類方法に改善の余地があります。	QMS/EMS:9.1.3 分析及び評価 OHSAS:4.5.1 パフォーマンスの測定及びモニタリング
6	改	工務部	各種業務活動から抽出されたヒヤリハット事例を文書化された情報として保持され、閲覧可能状態とされていますが、他の従事者が見たかどうかの確認方法に改善の余地があります。	QMS/EMS 7.5.3.2 文書化した情報の管理 OHSAS4.5.4 記録の管理
7	改	工務部 現場	危険予知活動報告書を起票するにあたり、危険有害要因の洗い出しをするうえで「いつ、どのようなとき」など細かく、どのような危険があるか記述する方法についてご検討ください。	OHSAS 4.3.1 危険源の特定、リスクアセスメント及びリスク管理策の決定
8	改	工務部 現場	作業中止基準において、現場特性を考慮し設定することを推奨します。	OHSAS 4.3.1 危険源の特定、リスクアセスメント及びリスク管理策の決定
9	改	工務部 現場	災害防止協議会の記録について、形骸化が懸念されます。協議の内容を漏れなく詳細に記入する方法に改善の余地があります。	OHSAS:4.4.3.2 参画及び協議組織
10	改	工務部 小口現場	作業は手順に則り、確実に実践されていることを現場で確認しました。 顧客への気配り・心遣いを「魅せる化」、さらなるサービス向上の推進方法に改善の余地があります。	QMS 8.5.1 製品及びサービス提供の管理

No.	区分	審査対象部署	観察された状態(客観的証拠)	規格 要求事項
11	GP	全社	2014年4月から、エコ(環境負荷低減)活動の成果を「CSR報告書」にとりまとめ、会社HPでの公表が行われているほか、同友会からは、ゼロエネルギービルを目指した施策が評価を得て、「地球環境委員長賞」を授賞されておりました。 環境マネジメントシステムの実施によって、利害関係者のニーズと期待に応えた「意図した成果」として結実しておりました。	EMS: 4.2 利害関係者のニーズ及び期待
12	GP	管理 責任者	若手技術者育成に向けた取組みとして、<1級管工事施工管理技士>や<2級管工事施工管理技士>資格取得のための教育・訓練に関する課題として、技術知識のみならず、「合格できる行動」を教えることで受験者を支援することに着手されておりました。 規格では、「適切な教育、訓練又は経験に基づいて...人々が力量を備えていることを確実にすること」を求めています。	QMS: 7.2 b) 力量
13	改	営業部	3年間の目標の推移で、顧客満足は、昨年、今年度<CSアンケート「普通」以下の項目に対し、的確な改善策を100%実施>へ品質目標を変更することで、顧客重視の認識を向上する仕組みが展開されていました。 一方、「CSアンケート」回収率100%の確実性を確保することが難しいことから、的確な改善策を記録する動作と同様に、回収の目処が立たない顧客の情報も同じ帳票に文書化された情報として保存・活用する必要をご検討ください。	QMS: 9.1.2 顧客満足
14	参	菅北 営業所	作業前に実施されるRKYMにおいて、作業上の危険源の特定、リスクアセスメント及びリスク管理策を考慮した結果が「危険予知活動報告書・巡視報告書」に記録されておりました。 2015年11月30日の同帳票では、サンダー作業における危険源の特定結果に対して、2つのリスク管理策が適切に記載されておりましたが、単独のリスク管理策としての評価に留まっており、重篤度・可能性・依存度・評価共に変動はありませんでした。 2つのリスク管理策について連動性を考慮に入れた評価を行なうことが望ましい。	OHS: 4.4.6 運用管理
15	参	総務部	部門環境目標として、<HP検索からの問合せ20件/年、受注5件/年>が設定され、管理されていましたが、件数に係る監視・測定<HP検索からの問合せの聞き取り調査>は、総務部のみで留まっていることから、収集数に係る統計的手法に改善の余地があります。 また、創立50周年記念に向けた行事に係る中期的な目標設定及び計画の必要性をご検討ください。	9.1.1 パフォーマンス評価
16	参	総務部	業務上の環境について、パソコン作業による身体的な疲労の蓄積が見受けられます。 規格では、「組織は、プロセスの運用に必要な環境、並びに製品及びサービスの適合を達成するために必要な環境を明確にし、提供し、維持しなければならない。」として、物理的要因(ブルーライト、画面の過剰な輝度)などを考慮に入れた作業環境を整備することが望ましい。	7.1.4 e) プロセスの運用に関する環境

新規受注現場紹介

●送風機整備補修工事(本渡地区清掃センター)